CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

CASBEE-広島 （2010年ver.1）

トヨタカローラ広島・ネッツトヨタ中国新本社

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配　慮　項　目	評価点	重み係数	内　訳							
■1.「地球温暖化対策」の推進										
1.1　建物の熱負荷抑制										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください 外壁にサンドィッチパネル、開口部に複層ガラスを採用することにより、断熱性の確保。	5.0	0.24	Q1	室内環境	2	温熱環境	2.1	室温制御	3	外皮性能
	4.0	0.76	LR1	エネルギー	1	建物の熱負荷抑制				
小計	4.2	0.08								
1.2　自然エネルギーの利用										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.50	LR1	エネルギー	2	自然ｴﾈﾙｷﾞｰ利用	2.1	自然ｴﾈﾙｷﾞｰの直接利用		
	3.0	0.50	LR1	エネルギー	2	自然ｴﾈﾙｷﾞｰ利用	2.2	自然ｴﾈﾙｷﾞｰの変換利用		
小計	3.0	0.14								
1.3　設備システムの高効率化										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。□ ・外壁の断熱性能確保および全熱交換器の採用により、空調用消費電力が低減。 ・LED照明器具の採用、人感センサーによる不在時消灯の徹底により照明用消費電力が低減。	5.0	1.00	LR1	エネルギー	3	設備システムの高効率化				
小計	5.0	0.20								
1.4　設備システムの効率的運用										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください 竣工時に運用と管理及び長期修繕計画を提出。	3.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用	4.1	モニタリング		
	4.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用	4.2	運用管理体制		
小計	3.5	0.14								
1.5　資源・マテリアル対策										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。□ CFT柱や大梁水平ハンチの採用による、構造部材断面を小さくすることに配慮。内装材における、エコマーク製品の積極的な採用。	4.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.1	節水		
	3.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用	1	雨水利用システム導入の有無
	3.0	0.04	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用	2	雑排水再利システム導入の有無
	3.0	0.06	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.1	材料使用量の削減		
	3.0	0.19	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.2	既存建築躯体等の継続使用		
	4.0	0.16	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		
	5.0	0.16	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		
	3.0	0.04	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.5	持続可能な森林から産出された木材		
	5.0	0.19	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		
小計	3.9	0.31								
1.6　ライフサイクルCO2排出率										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください 一般的な建物を上回らないライフサイクルCO2排出率。	4.4	1.00	LR3	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮				
小計	4.4	0.13								
1.「地球温暖化対策」の推進の評価	4.1	0.69								
■2.「ヒートアイランド対策」の推進										
2.1　温熱環境の向上										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。 1階の多くを、ピロティとして計画。道路境界側を積極的に緑化。	2.0	0.51	Q3	室外環境（敷地内）	1	生物環境の保全と創出				
	4.0	0.26	Q3	室外環境（敷地内）	3	地域性・アメニティへの配慮	3.2	敷地内温熱環境の向上		
	4.0	0.23	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.2	温熱環境悪化の改善		
小計	3.0	0.96								
2.2　交通負荷抑制										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。 附置義務台数を大きく上回る駐車台数を確保。敷地への自動車出入口を複数設置。	5.0	1.00	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.3	地域インフラへの負荷抑制	3	交通負荷抑制
小計	5.0	0.04								
2.「ﾋｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞ対策」の推進の評価	3.1	0.21								
■3.「長寿命化対策」の推進										
3.1　耐用性の向上										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。 外装材、内装材ともに、耐久性の高いものを採用。	3.0	0.47	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	部品・部材の耐用年数	1	耐震性
	3.0	0.12	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	部品・部材の耐用年数	2	免進・制振性能
	3.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	1	躯体材料の耐用年数
	5.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔
	3.0	0.04	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔
	3.0	0.03	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	4	空調換気ダクトの更新必要間隔
	4.0	0.06	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	5	空調・給排水配管の更新必要間隔
	3.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	6	主要設備機器の更新必要間隔
小計	3.2	0.70								
3.2　設備の更新性										
（コメント）　※設計の計画上特段に配慮した事項を記載してください。 構造部材を痛めることなく、各種設備の更新が可能。	3.0	0.17	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	1	空調配管の更新性
	4.0	0.17	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	2	給水配管の更新性
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	3	電気配線の更新性
	5.0	0.11	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	4	通信配線の更新性
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	5	設備機器の更新性
	4.0	0.22	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	6	バックアップスペース
小計	3.6	0.30								
3.「長寿命化対策」の推進の平均点（上記2項目）	3.4	0.10								
■重点項目の総平均（上記3項目）	3.8									